

## 銀の皿

「感謝と喜びを」



中央聖書神学校在学時、片づけヘルパー、夕食ヘルパーという奉仕がありました。いつもおいしい食事を出して下さい、賄(まかない)さんの調理補助をさせて頂く奉仕です。私はこの時まで料理したことがありません。言うならカップ麺とレトルトカレーを作ることが得意でした。そこで初めて人が調理している過程をまじまじと見て、そのお手伝いをするのです。しかも授業や宿題、ほかの奉仕があり、この奉仕もあるのです。私はこの事を通じて「お、おかん毎日いろいろな働きの中で家族の為に、ご飯作ってくれてたんだ-」と思い知らされました。

今思えばとんでもない、私の社会人時代の話です。実家暮らしで仕事終わり、出してくれた食事に「味付けが濃いだの、今日のおかず他のがいいだの」言っていた自分を深く恥じました。毎日親が差し出してくれる愛情の裏にある労苦と痛みの一かけらを知ったからです。この時くらいから、料理を覚え始め、今ではハンバーグや照り焼きチキン、肉じゃが、オムライス、お好み焼き等、作れるようになりました。時折、教えてもらったわけでもないのに自分で作った料理(カレーとか、お好み焼きとか特に好物)が実家の味っぽくなる時があります。そこから何を足せば完全に家の料理になるのかと考えながら料理し、家の味に近づけていきました。現在、カレーに関してはほぼおかんの味です(笑)愛が根底にある感謝と喜びが物事を始める一番の

動機であり、成長の秘訣だという事を料理をするという事を通じて学んだのでした。

今年の北九州シオン教会の信仰指標は【イエス様のようになる】です。私達は信仰が与えられ、イエス様のようになりたいと願い生きていきます。しかしそこから程遠い自分や理不尽な出来事の前に挫折してしまうことがあります。

しかし私達にとって大切な聖句は【見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいます(マタイ 28:20)】です。何をすべきか聖霊が私達に告げて下さり、どのように歩めばよいかいつも励まして下さるのです。私達にとって大切な事は主が導いて下さったその道に立ち上がり、歩き出す事です。その時私達はイエス キリストの愛の根底にある痛みと労苦の一端を知ることになります。つまり十字架の意味をまた一つ知ると言う事です。それがイエス様を知る知識から体験へと変わる秘訣です。偉大なる予言者ヨハネの父と母、ザカリヤとエリサベツのような人生の晩年を迎えても、感謝と喜びがあふれる人生となりますように共に主を見上げてまいりましょう。

